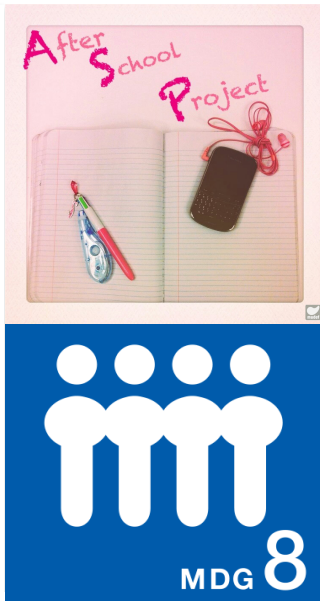


# Internship × LGBT

## mudef news Vol.49



## CONTENTS

- 第1回広報インターン(After School Project)
- LGBT×私(After School Project)
- mudef news



今回新たに始まった広報インターン。広報インターンの目的は学生にみなさんに、地球と人類の宿題解決をちょっぴりお手伝いしてもらうこと。テーマを決めて、決められた期間の間にそのテーマを様々な形で「伝える」ことを試行錯誤する取り組みです。

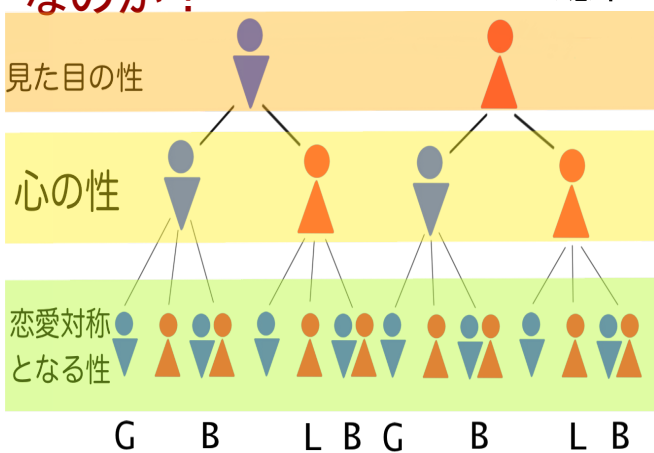
第1回のテーマはLGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字を取ったセクシャルマイノリティを指します)。現在参加している広報インターン5名に与えられた期間は3月13日(金)までの約1ヶ月間。この時間の中で、LGBT、広報の現場のプロの勉強会やアドバイスを基に活動しています。

それぞれの視点でLGBTを見て、考えたとき、それぞれどんな風に見えるのか。そして、それらの考え、想いが形になった時どんな化学反応が起きるのか。みなさん、楽しみにしていて下さいね。

詳細はAfter School Projectのウェブページにて随時更新していきます↓  
[http://mudef.net/after\\_school\\_project/](http://mudef.net/after_school_project/)

## そもそもLGBTと何なのか？

現在、日本でも**5.2%**の人がLGBTと言われて居られており(2012年 電通総研調べ)、20人に1人の人がLGBTと推定されています。**40人のクラスなら2人、100人の職場なら5人。**  
 この数字をみなさんはどう思いますか？  
**LGBTの意味について下の図を参考にしてみましょう！**



| Lesbian<br>(レズビアン)           | Gay<br>(ゲイ)                                              |
|------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 自覚する性別が女性で、恋愛対象として好きになる相手も女性 | 自覚する性別が男性で、恋愛対象として好きになる相手も男性                             |
| LGBT                         |                                                          |
| Bisexual<br>(バイセクシャル)        | Transgender<br>(トランスジェンダー)                               |
| 恋愛対象として好きになる相手が男性と女性の両方      | 外的手術等の措置によって体の性別を変えた人、変えたいと思っている人(Transsexualトランスセクシュアル) |



私たちにとって、LGBTとは。

ひとり、ひとり、LGBTについて想うこと。考えたこと。広報インターンの学生に聞きました。

## L × "I"GBT

私にとってLGBTという言葉は自分を表現する1つのワードである。

この言葉は北米やヨーロッパで使われ始めたもので、自分たちを肯定的に語る手段の1つとして使われる。私が中学生・高校生の時はセクシャルマイノリティ(略してセクマイ)と自分のこと語っていた。もちろん今でもセクシャルマイノリティという言葉はある。個人的な体感としてはLGBTという言葉が現在の日本社会の中で使われるようになったのはここ数年のように感じる。そのため、当事者でない人がLGBTという言葉を知らないということは日本においてなんら不思議ではないと思う。

## L"ife" × GBT

私は日常生活ではカミングアウトしていない。同じLGBTの友達や知り合いは沢山いるため、そのコミュニティ内で本音を語ることの出来る環境がある。現状としてはそれで満足している。しかし、日常生活でカミングアウト出来るか。という話題になった時、私も含めて殆どの友人は出来ないと言った。カミングアウトをした後の周囲の反応が怖いのだ。だからLGBTの友人、唯一カミングアウトしている友人の前以外では"みんな"と同じ"仮面"を被るのだ。生まれもった性質、育った環境の影響過ぎない性的指向、性自認、身体的な性の多様性への社会認識と受容性がまだまだ低い。大学を卒業し、会社に入り社会の一員となる今後、きっと息苦しさを覚えることが必ずどこかで出てくるだろう。多くの当事者に息苦しさを与えているこの社会生活環境をどう考えていくべきだろうか。

## LGBT × "YOU"

日本の人口の約5%はLGBT当事者である。自分の周りにはそんな人いない、会ったことない。と言うひとが多いだろう。しかし、"会ったことない"のではなく"気づいていない"だけではないだろうか。なぜならそれは目に見えないからである。

-社会に出ればいろんな人がいる-

誰でもこんな言葉を口にしたこと、耳にする機会があっただろう。この言葉は「いろんな人と自分自身が交わっていく」という意味であると私は認識するが、大半の人もこのような意味合いで捉えているであろう。この記事を読んでいるあなたも、記事を書いているレズビアンなの私も「いろんな人」の内の一人だ。つまり気づいていないだけで実は既に関わっている可能性が十分にある。そんな知らぬ間に関わっているかもしれないLGBTについて、こんな人も社会の中にいて、こんな問題を抱えている人もいるんだということをこの広報の中で知って頂ければ幸いです。

文責: 広報インターン生

# LGBT × 私



## After School Projectとは？

国際問題や様々な文化を私たちなりの視点で考え、伝えていきます。これがAfter School Projectです。

「何かしたい」そんな共通の想いを抱き集まりました。特別な知識や経験がなくても、強い想いさえあれば、その想いに近づくことはできます。

私はストレートであり、恋愛対象は男性である。LGBTという言葉を知る以前は、これを「普通」だと思っていた。

しかし、そんな私の「普通」を変える出来事があった。レディー・ガガのライブである。私がまだ大学1年生だった、2012年5月のライブで、「同性のように見える人」同士が愛し合っていたのである。それを公共の場で見るのは初めてだった。そして、その年の8月。カナダの都市バンクーバーに一ヶ月留学し、ダウンタウンでカラフルな虹色の旗を目にする。気になってインターネットで検索をかけて調べてみたところ、それは「レインボーフラッグ」だということを知る。これが人生初めてのLGBTという言葉との出会いだった。

今はまだ、日本ではLGBTという言葉が普及しつつある、というような感じで、まわりにLGBTという言葉を知らなければ、LGBTを知っていても理解することは自体から一歩引いている人もいます。私のような非当事者は当事者側の入り込めない部分を、完全に理解することは難しいかもしれない。これが非当事者側から感じる「難しさ」でもあると思っている。しかし、ここ東京には2020年に世界中から多くの人が、そして色々な愛の形を持っている人が来日する。愛にも色々な形があるということを理解し、それをもし異質なものと考えるのなら、それがおかしいことではないことではないと考えることがLGBT非当事者としての役目だと思う。

日本で最近では、LUSHがLGBTを支援するキャンペーンや渋谷区で同性婚が認められるようになるなど、多様な愛の形の理解へと、少しずつ、一歩ずつ、近づいている。それでも性別上のダイバーシティの実現はまだ完全には浸透していない、マイノリティへ目が向けられにくい、という実態はまだ残っている。まずは2020年に向けて、愛の形が性別上の男と女だけではないことをなるべく多くの人に知ってもらうこと。これが小さく見えて大きな一歩であると思う。

文責: 内山瑞菜

# LGBT×私

私たちは「新たな常識」の構成員になるべく、常に彼らの声に耳を傾けておくべきだと思うのです。

「LGBT」という言葉の意味を知ったのは大学に入って三年目。国際協力の授業を受けていた時のことです。「イスラム国家では何人もの同性愛者が処刑されている」という事実を耳にした時、私の中にはなんとも言えないような無い疑問と違和感が残りました。「好きな人を好きと言えない世界」そんな物があっていいはずがない。と強く思いました。

私には中学校以来の友人に男性同性愛者の友人がいます。彼は私にいつも嬉しそうに好きな人の話をしていて、それは当時の私たち中学生がする「恋バナ」となるとは変わりありませんでした。ただ、いつも彼は話の最後に「まあ、叶いっこ無いんだけどね～」と漏らしていました。事実、私の知る限り私がいた中学校で男性同性愛者は居ませんでした。もしかしたら居たのかもしれませんが、私はその真実を知りません。彼も同様でした。その為に「自分は変わり者」「おかしい奴」と考えてきたのです。幸い、日本には「同性を好きになってはいけない」という具体的な法律はありません。しかし、一緒になることも許されていません。日本も決してLGBTに優しい国では無いのです。「常識的に考えて」「皆と違って」といつも口々にしていた彼をそうさせてしまったのも我々が済んでいるこの世の中の「常識」的な部分なのです。日本におけるLGBTは少なくないのに、どうして？なぜあんな種の「レア者」として彼らが扱われているのでしょうか？それは彼らが「閉じなければ生き辛い」からではないでしょうか。

彼の場合、男の友達を好きだと気づいたのは中学生という敏感な時期です。たとえその相手が女子だろうがからかわれるのは目に見えています。しかし、おとなしかった彼が好きになったのは「自分と同じ性別」の人。彼は閉じるしかありませんでした。閉じたままの彼は誰とも恋愛の話をしなかったし、「好きなタイプ」とか「〇組の〇〇ちゃんがかわいい」と言った話題にも一切興味を示さないクールな人物として通っていました。そんな彼がどうして私にカミングアウトしてくれたのか。その経緯をお話します。現在私はストレートですが、中学二年生の時、幼なじみの女の子が他の子と仲良くしているのを見ると嫉妬したり自分にかまってくれないとむっとしたりすることがありました。今考えればただ、幼なじみで親友の女の子を誰かに捕られるのが嫌なだけだったのですが、当時一度も好きな人が出来たことのなかった私は「初恋」と勘違いし、彼に相談を持ちかけました。その時彼は私にカミングアウトしてくれました。しばらくして私に好きな男の子が出来た本当の「初恋」を経験した時、彼は少し沈んでいましたが、相談相手は必要だったらしく、そのまま私との関係は続いていきました。

「出来れば一生隠しておきたい。でも好き。でも嫌われるのはもつと嫌。」

と、彼の中にいつもぐるぐる渦巻いた感情があったのは私や彼が言わなくても想像がつくことかもしれません。

彼はいつも彼の中にある「常識」に捕われて苦しんでいました。日本が私たちに、彼らに抱かせている「常識」がある限り、彼らは苦しみながら生きていかなければならないのか。と考えるとこの国は非常に残酷で悲しい世界に見えてきます。それならば。

「常識的に考えて」好きな人を好きと言えない世界はおかしくないのでしょうか？

例えば、あなたの友人に学校で一番人気のある人物を好きになってしまった人が居たら「好きになっちゃったんだからしかたないよ！」と肩を貸しませんか？

友人がその彼を好きになった事実に対して罪悪感や嫌悪感を感じることはないと思いませんか？

わたしはないと思うのです。

恋をするのもそれに関して努力したり話をしたりすることは年頃の男女にとっての喜びや、楽しみの一つだと思うのです。

「好きな人に好きと言える世界」「好きな人と将来をめざしていける世界」それらがあってこそ、人は恋をして愛し合って、そして胸を張って自分のパートナーと未来を築いていくことが出来るのではないのでしょうか。

私にとって身近なLGBTの存在がわたしにこういった思いを抱かせる要因になっているのかもしれないけれど、やはり、わたしは今の日本に世界に計り知れない違和感を感じるのです。

国を、制度を、常識を変えようとするならば私たちが動かなければ行けないと思うのです。私は耳を傾けること、そしてその声を広めていこうと足掻くことしか出来ません。

「当事者でもないあなたが？」と思われるかもしれませんが。LGBTの友人が居るというだけで、私とLGBTは直接的には関係ないと言われるかもしれませんが。けれど、私はこの日本という国に私が存在するという理由だけで十分であると思うのです。国民は国や社会のシステムの一部となるのだから、自らの手で「新たな常識」を作り上げていくことが必要であると考えます。私たちは「新たな常識」の構成員になるべく、常に彼らの声に耳を傾けておくべきだと思うのです。

文責：明治学院大学 岡崎円花

現在、広報インターン生たちは、アライ(LGBT支援者)を増やすことを目的に、プロジェクトを開始しました！

慣れないこともあるかもしれませんが、みんなそれぞれの個性を生かし頑張っています。みんなの想いがどんなかたちになるのか、お楽しみに♪



活動レポートはこちらから→[http://mudef.net/after\\_school\\_project/](http://mudef.net/after_school_project/)





## イベント報告

### 2月7日 MISIAの森 「雪のMISIAの森を歩こう！」

残念ながら最近の好天により森には積雪がほとんどなく、ほとんど3月のようなポカポカ陽気の中の開催となりましたが、参加した15名の方たちはMISIAの森から周辺のかも池、湿地園などを散策。約2時間の散策ではヤマガラやコガモ、カルガモ等野鳥の観察や枯れ木でみつけたキノコの生息、リスが実を求めてかじってエビフライのようになった松ぼっくり等たくさんの生き物やその痕跡を見つけることができました！参加者からは「また森にきたい」との声も。

冬のMISIAの森は、春や夏とは異なる姿を見せてくれました♪

詳しくはこちらから→<http://satoyamabasket.net/forest/2015/02/reportmisia.html>



## イベント告知

2.28(土)、3.1(日)上郷・森の家

国立天文台「君もガリレオ！」プロジェクト  
「天体観測イベント」

×

「46億年・地球の道」

富良野塾

上郷・森と横浜自然観察の森で、去年公表をいただいた国立天文台スタッフによる「天体観測イベント」と、NPO法人C・C・C富良野自然塾(塾長:倉本聡)のインストラクターの解説を聞きながら地球環境を考えるプログラム「46億年・地球の道」を開催します。

手作りの天体望遠鏡を使って、雄大な宇宙の成り立ちと地球ができるまでを、また、横浜の自然の森を歩きながら、地球が生まれてから今までの道のりを考えてみませんか？



## メディア掲載

SOTOKOTO3月号  
あふれ出る想い

地球と仲良くし、楽しく生きていくためのライフスタイルを探り、提案していくエコ&ソーシャルな月刊誌「ソトコト」。

5日に発売された3月号のテーマは、先月号の引き続き、犬猫の殺処分。

犬や猫の殺処分の現状や、保護活動の大切さを語り合いました。

年間約16万匹もの犬や猫が殺処分されている日本。犬や猫が人とともにハッピーに暮らせるために、私たちは何をすればいいのだろうか？

寄付、情報提供、そして、意識改革。

ペット先進国のドイツの取り組みに学びながら、MISIAと犬や猫の保護活動を続けている歌手でタレントの中川翔子さんと、国際協力NGO『ピースウィンズ・ジャパン』で犬の殺処分ゼロを目指す「ピースワンコ・ジャパン」のリーダーの大西純子さんが語りました。

これまでの対談記事についてはこちら→

<http://www.mudef.net/sotokoto/>

mudef(みゅーでふ)は、音楽(art)とデザイン(design)を組み合わせたコトバ。

地球には、解決しなくてはならないコトがたくさんあります。様々な問題に取り組むためには、国境を超えて人びとが協力し合うことが大切。そのために生まれたのが、mudef。

「地球と人類が直面する宿題解決をちよっぴりでもお手伝いしたい。国境も言語も人種も超えるチカラを持つ音楽とデザインの特技を活かして！」そう考えるアーティストの集まりです。